

書籍紹介

中脇初音著：伝言（講談社文庫）蔵書版 384 頁 講談社

崎山ひろみさんを、主人公にして



物語、「伝言」は主人公、ひろみが、満洲国の首都、新京（現在は長春）の1945年、高等女学校時代から始まる。戦時下の主人公は、敷島高等女学校の3年生で、父は、満鉄から五族協和を推進していた「協和会」の課長に転任し、平穏な生活が続いていた。女学生の目で、当時の満洲の生活環境を語っている。彼女が3年生になると学徒動員で、極秘兵器である「風船爆弾」製造に関わるようになっていた。しかし生徒達は何を作っているかわからず、大きな窯のフチで和紙を重ねわせる蒸し暑いなかの作業が、連日続いていた。

女学生達は厳しい生活のなかで、楽しく多くのことを語った。当時の中国人（満人）と日本人の差別を、女学生の目線で植民地支配の歪みを静かに浮かび上がせ、周辺の知人動向についても淡々と記述して、読者に消えた満洲国の実情を訴えている。

終戦前後の新京居住者の生活の混乱と恐怖・不安・友人との別れと続き、ほぼ1年間の混乱した新京の生活と引き揚げへの苦しさが語られている。物語は、ひとみが高齢者になり、満洲の資料を集めて、語られなかった満洲国時代の実情を次の世代に託す活動をしていることで終わっている。やさしい文章で語り継がれた庶民の満洲生活資料にもなっている。



物語の主人公、崎山ひろみさんは、高知在住で、30年以上前より、高知県で引き揚げ者の団体満洲会の主要なメンバーとして活動し、「満州の歴史を語り継ぐ会高知の会」を起こして副会長として、次世代への語り部として活躍している。91歳である（左写真、会合中の崎山ひろみさん）